

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「タクシー定額乗り放題 JTB九州、福岡市で高齢者対象」
- 2) 「第一興商、カラオケでダンス講座 高齢者向け新機種」
- 3) 「スマホに描いた絵をトーストに焼ける“Toasteroid”」
- 4) 「日常にあふれる色をスキャンして描くデジタルペン“CRONZY”」

1) 「タクシー定額乗り放題 JTB九州、福岡市で高齢者対象」

JTB九州（福岡市）は高齢者がタクシーに乗り放題になる定額サービスを福岡市内のほぼ全域で始めたと発表した。3月まで市内一部で社会実験として実施していたサービスを拡大させた。9月まで実施する計画で、利用状況をみながら10月以降の継続を目指す。通院や買い物に苦勞する高齢者の新たな交通手段になりそうだ。

「JTBジェロンタクシー」の名称で、70歳以上の高齢者なら誰でも利用できる。病院、スーパーなどの店舗、鉄道の駅から2カ所の目的地を指定。自宅と目的地をタクシーで行き来できる。

利用時間帯は午前9時-午後4時まで。料金は目的地への距離によって異なり、月額2万2千-4万4千円。福岡市の7区すべてで利用できるが、一部対象外の地域もある。

高齢者の自動車事故が増え社会問題となっているが、やはり移動手段として車が必要な方は多く、とてもありがたいサービスだ。スーパーなどの商業施設も目的地として設定できるため、イトインや休憩所の充実などがこのサービスの普及とともに今以上に重要となってくるだろう。

2) 「第一興商、カラオケでダンス講座 高齢者向け新機種」

カラオケ大手の第一興商は10月、シニア市場向けのカラオケ機器の新機種を発売する。楽曲数が従来の2.5倍の10万曲に増える。カラオケ業界はスナックなどの飲食店向けの市場が頭打ちだ。カラオケ機器を高齢者の健康促進に利用して新たな需要開拓を狙う。自治体や介護施設などでの利用拡大を目指す。

新機種は従来型に比べ歌手の本人映像が1.5倍の450曲に増えるほか、高齢者向けに介護予防の新しいコンテンツを追加する。第一興商は東京・中野の高齢者向け有料会員施設で発声やダンスによって健康を促進する講座を開催している。機器を使えば同施設の会員にならなくても講座を体験できるようにする。

第一興商の高齢者向けカラオケ機器「DK エルダーシステム」は全国2万カ所の高齢者施設に導入しており、3万カ所への拡大を目指している。機器を用いて歌や体操などのプログラムを実施。高齢者の健康を促進している。

高齢者向けカラオケ機器の発売に合わせて、バーやスナックなど飲食店で利用するカラオケ機器の新機種販売も始める。採点ゲームや外国語曲などを追加し飲食店市場でも現在70%を超えるシェアの拡大を狙う。

歌う目的であるはずのカラオケが、着目点を変えるだけでそれ以外のツールとして活躍することにおもしろさを感じた。ストレス発散や日々の健康、コミュニケーションの場としてもカラオケは今後様々な視点で広がりそうだ。

3) 「スマホに描いた絵をトーストに焼ける “Toasteroid”」

遊び心満載のトースターがクラウドファンディングサイトKickstarterに登場した。専用アプリに描いた絵をそのままパンに焼ける「Toasteroid」。スマイルマークのような絵文字風のアイコンから手書きのものまで“描く”ことができ、朝食に使えば1日を楽しくスタートさせることができそうだ。

ToasteroidはスマホとBluetoothで連携する。使うには、まずアプリで絵を創作。用意されたテンプレートの中から選んでもいいし、オリジナルを描いてもいい。

次にパンに焼き目をどれくらいつけるかをアプリのスライダーで設定し、パンをToasteroidにはさんでトースト開始。しばらくすると、絵が描かれたパンがポンっとでてくる。

絵が描けるだけでも面白いが、Toasteroidではメッセージや天気予報までも焼きつけられるというユニークさも。

例えば、メッセージ機能を使って、離れて住む家族のトーストに朝のあいさつや、愛情たっぷりの絵を届けることも可能だ。

朝は「1日が始まる…」とブルーだったりするもの。そんな時こんなトースターで焼いたパンを朝食でとれば、なんだかそれだけでハッピーな気分になりそう。

ただし、絵を描いたりする分、余計に時間がかかるのは避けられないので遅刻だけは気をつけたい。

Toasteroidは現在Kickstarterで85ドル（約8500円）の出資で入手でき、出資期限は9月19日となっている。

離れて住む家族の間での使用シーンが一番に浮かんだ。現在でもポットの使用の有無で高齢家族の安否を確認できたりテレビ電話や便利なツールも数多くあるが、スイッチのON・OFFのみやデータでやりとりをするのではなく、最終アナログな形で出力されるというところに温かみを感じる。毎朝起きるのが楽しみになりそうなツールだ。

4) 「日常にあふれる色をスキャンして描くデジタルペン “CRONZY”」

数年前、全500色の「色えんぴつ」が発売され（25本ずつ20ヶ月で完成）て話題となった。が、こちらはじつにその3万2,000倍。およそ1,600万色以上を再現する「デジタルペン」が登場した。

もちろん、こちらは未来型のガジェットで単純な比較で計れるものではない。けれど、たった1本のペンが表現するありとあらゆる色。こう聞くだけで、ワクワクせずにはいられない。

このハイテクアートツール『CRONZY Pen』の特長を表すなら、ペンの背の部分がスキャナー構造のCRONZY。

植物でも衣類でも、街中のスプレーアートでも、身の回りのどんなものにも、このペンを当ててポチッとするだけ。あらゆる物体から色をスキャンすれば、その色を調合し再現してくれるという訳だ。

内蔵した5色のインク（赤・黄・青・黒・白）で、なんと計算上は1,600万通り以上のカラーが表現できるという。これなら、一度にたくさんのペンを持ち歩く必要もないし、色えんぴつやクレヨンにいい色も再現できる。

けれど、CRONZYのようにスキャンし、忠実にその色を再現するデバイスの登場は、従来までのデッサンをもっと簡便化させ、より身近なアート体験を共有させてくれようとしているのかもしれない。むしろ、モバイル世代にはこちらの方が描いてみたくなる。

ポチッ、ポチッ、こんな感じでどんどん色をスキャンして専用アプリ（iOS / Android / Windows Phone）内にお気に入りの色をストックしていけば、自分だけのパレットが完成。使いたい色を選べば、カラーを呼び出し調合してくれるという訳だ。

街中のモンスターをハントしていくよりも、こっちの方が実用性ははるかに上だし、収集していく楽しみもあるんじゃないだろうか。

太さの異なる取り替え可能なペン先は全部で5種類。目的や用途に合わせて使い分けられるのもうれしい。デザインの幅もぐんと広がるはずだ。

すでにクラウドファンディングサイト「Indiegogo」では、多くの出資が集まり始め、先行予約だと199ドル（約2万円）から入手可能だ。

デザインする人にとっては実用価値の高いペンだと感じた。約2万円ということで値段も高すぎることもない。スキャンした色をそのままイラストレータの色に登録してくれる連携もあればさらに実用性が上がるのではないだろうか。アプリで自分だけのパレットが出来る点も、仕事上で一度使用した色を管理出来るので嬉しい。